

水害リスクマップについて

水害リスク情報の充実(水害リスクマップ(浸水頻度図)の整備)

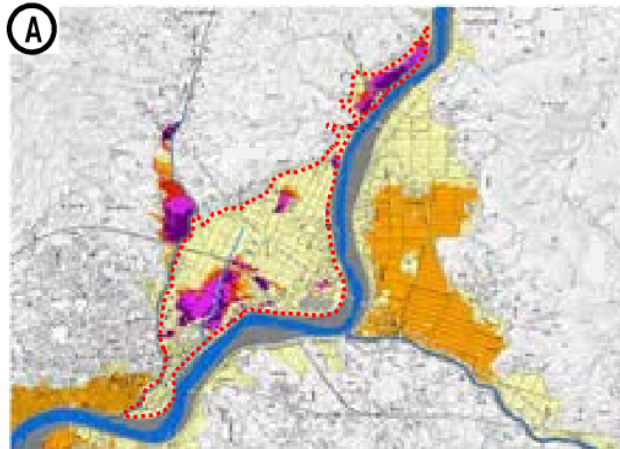
- 従来、想定最大規模降雨の洪水で想定される浸水深を表示した水害ハザードマップを提供し、洪水時の円滑かつ迅速な避難確保等を促進。
- 今後は、これに加えて、浸水範囲と浸水頻度の関係をわかりやすく図示した「水害リスクマップ(浸水頻度図)」を新たに整備し、水害リスク情報の充実を図り、防災・減災のための土地利用等を促進。

水害リスク情報の充実

○水害ハザードマップ



○水害リスクマップ^{※1}



※1 当資料の水害リスクマップは床上浸水相当(50cm以上)の浸水が発生する範囲を示しています。(暫定版)

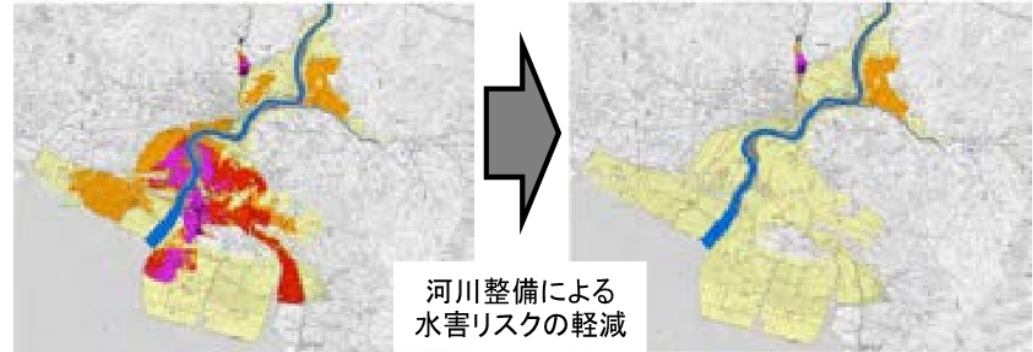
水害リスクマップの活用イメージ

現在の水害リスクと今後実施する河川整備の効果を反映した将来の水害リスクを提示し、以下に取り組む

- 住居・企業の立地誘導・立地選択や水害保険への反映等に活用することで、水害リスクを踏まえた土地利用・住まい方の工夫等を促進
- 企業BCPへの反映を促進することで、洪水時の事業資産の損害を最小限にとどめることにより、事業の継続・早期復旧を図る

現在(外水氾濫のみ)

整備後(外水氾濫のみ)



【令和4年度の国土交通省としての取組】

- ・全国109の一級水系において、外水氾濫を対象とした水害リスクマップの作成を完了させるとともに、先行して、特定都市河川や水災害リスクを踏まえた防災まちづくりに取り組む地区において、内水も考慮した水害リスクマップを作成

水害リスクマップの作成について

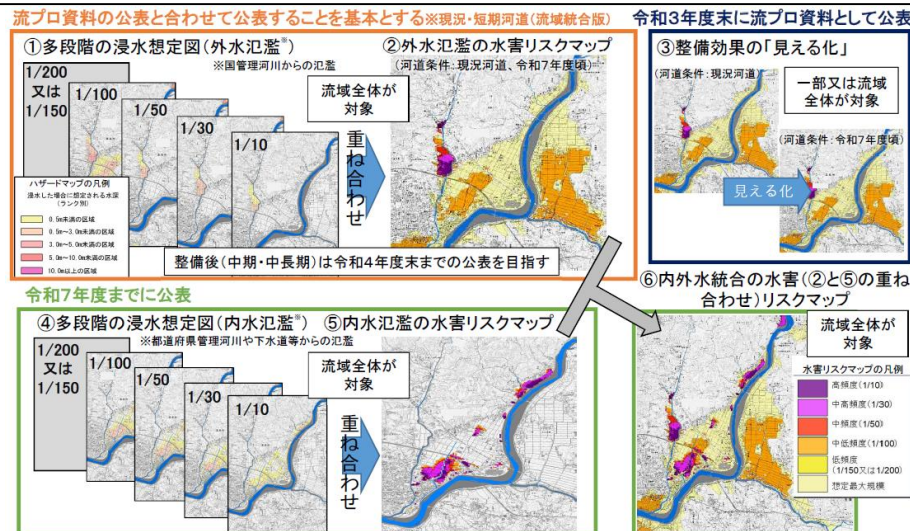
○令和3年度に検討した現況河道における水害リスクマップを令和4年12月に公表した。さらに、令和4年度は短期・中長期河道における外水氾濫の水害リスクマップを引き続き作成してきたところである。

○令和5年度以降は、内水氾濫及び内外水統合の水害リスクマップの作成を進め、令和7年度末の公表を目指す。

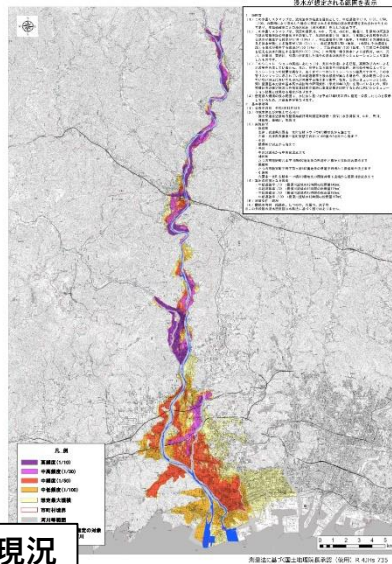
■多段階の浸水想定図及び水害リスクマップ作成状況

河道条件		作成状況	公表予定
外水氾濫	現況	済	R4.12 公表済※
	短期	済	R4末 公表
	中長期		
内水氾濫	現況	今後作成	R7末 公表
内外水統合	現況		

※姫路河川国道事務所HPにて公表

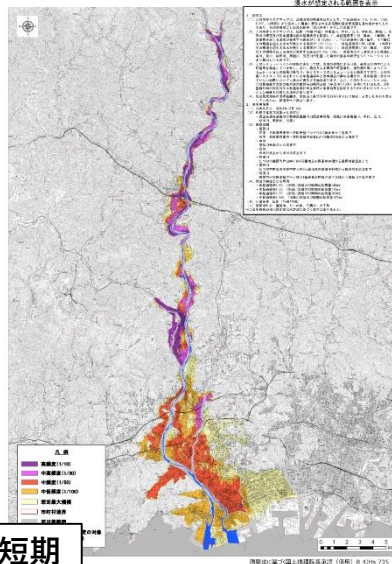


揖保川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ【現況河道】



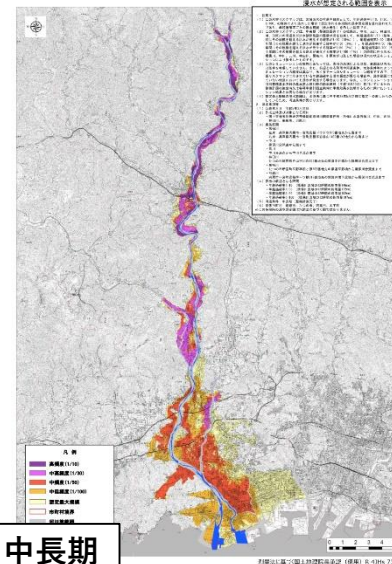
現況

揖保川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ【短期河道】



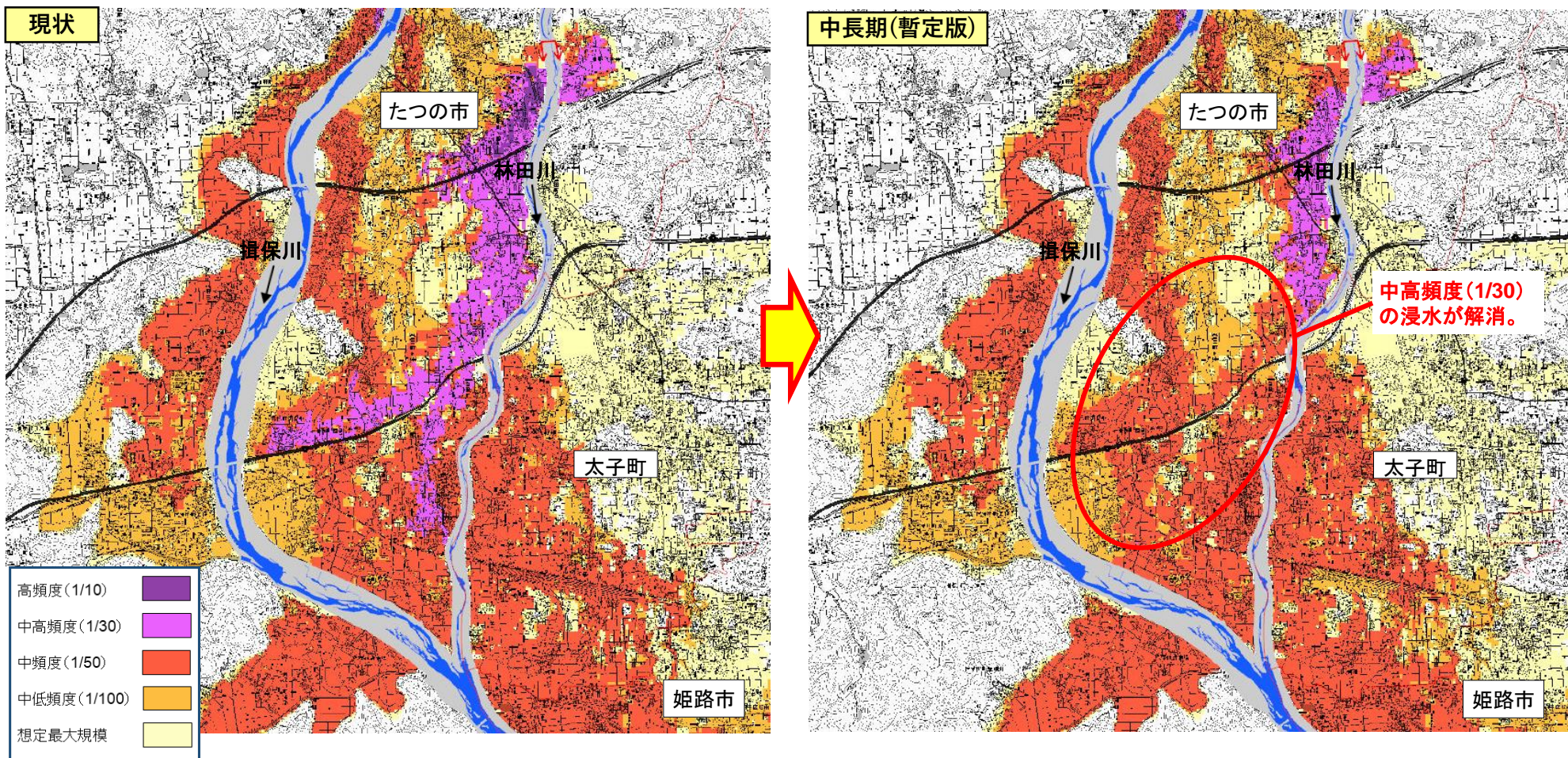
短期

揖保川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ【中長期河道】



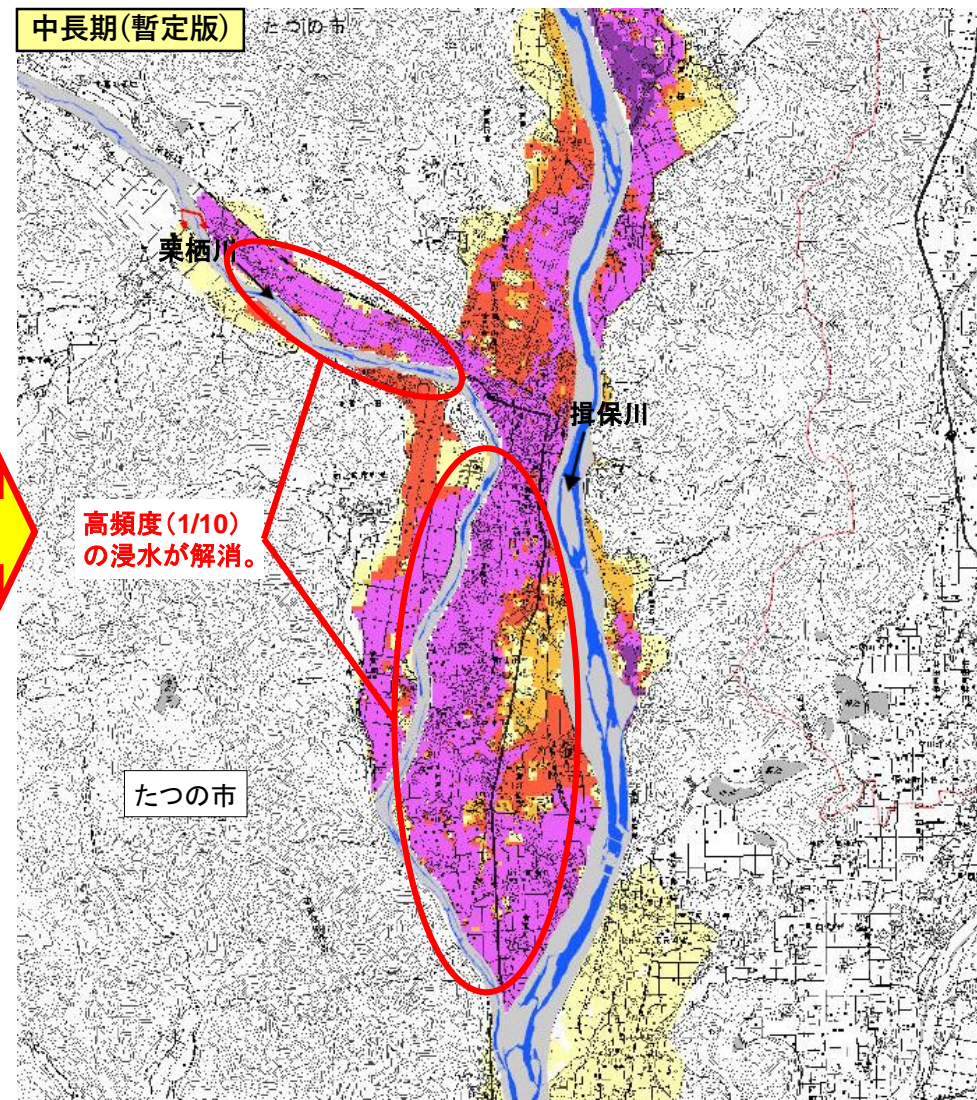
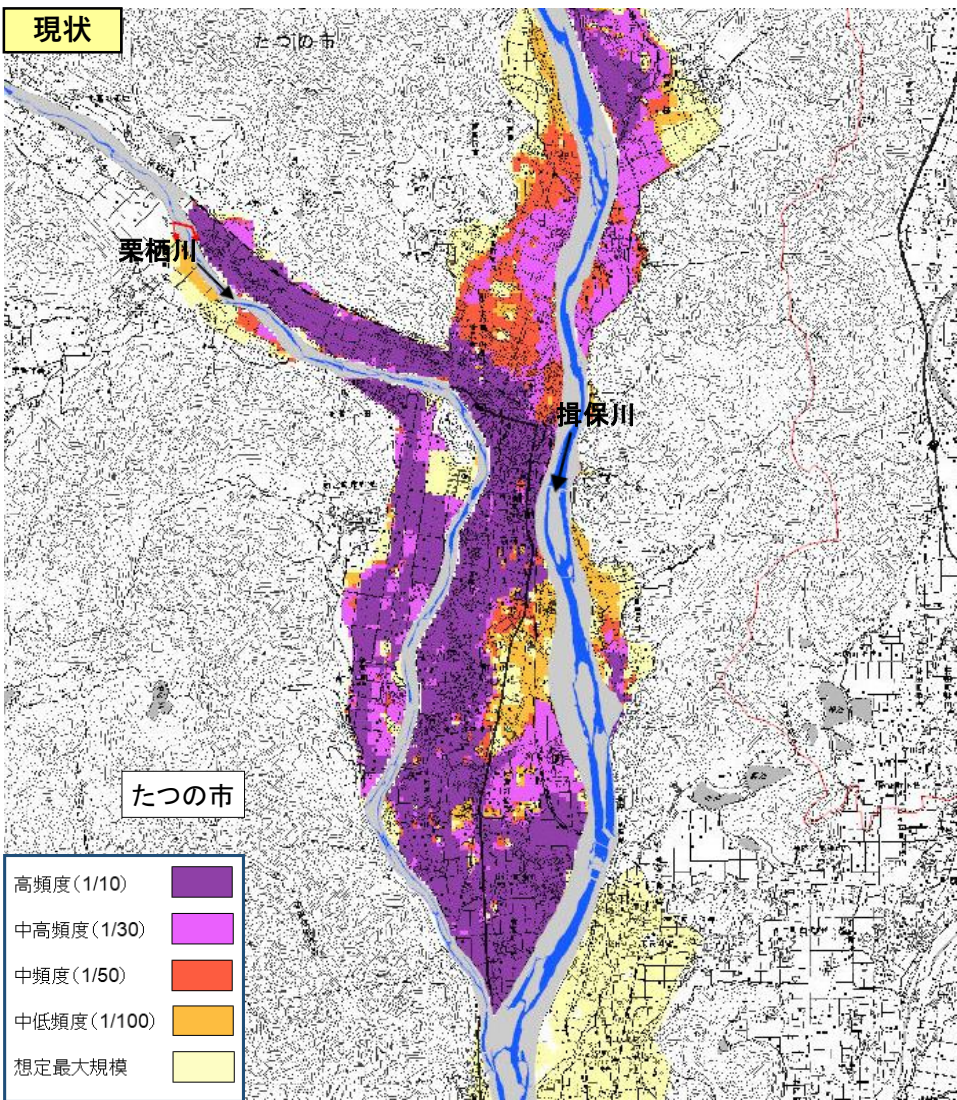
中長期

林田川中流域



※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/100確率年の降雨及びその降雨を1/10, 1/30, 1/50の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。
 ※国直轄区間のからの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。

栗栖川流域



※この図は、河川の長期計画（河川整備基本方針）で計画対象としている1/100確率年の降雨及びその降雨を1/10、1/30、1/50の確率年とした場合に想定される浸水範囲であり、河川整備計画で目標とする降雨により想定される浸水範囲と一致しない場合がある。
 ※国直轄区間からの外水氾濫のみを想定したものであり、浸水範囲の軽減効果は、国の整備効果のみを反映している。

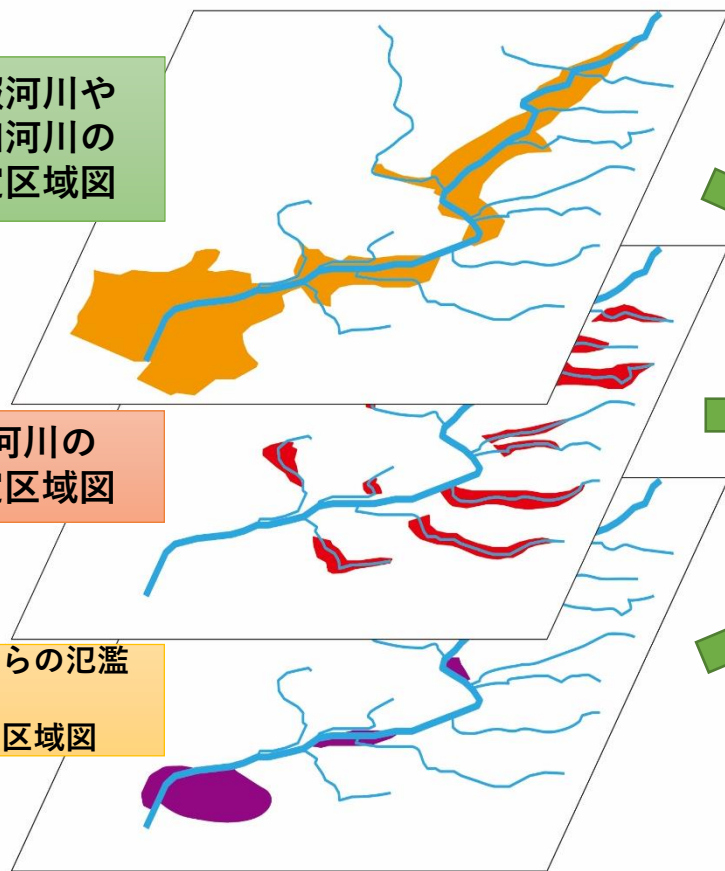
- 洪水予報河川や水位周知河川のみならず、その他河川や下水道等からの氾濫を明らかとすることで、**水害リスク情報の空白地の解消が重要**。
- 現在管理者別に作成・提供されている浸水ハザード情報図について、**洪水予報河川や水位周知河川の氾濫、その他河川の氾濫(外水氾濫)、下水道等からの氾濫(内水氾濫)を重ね合わせて表示**。

内外水一体型の水害リスクマップ作成

洪水予報河川や
水位周知河川の
浸水想定区域図

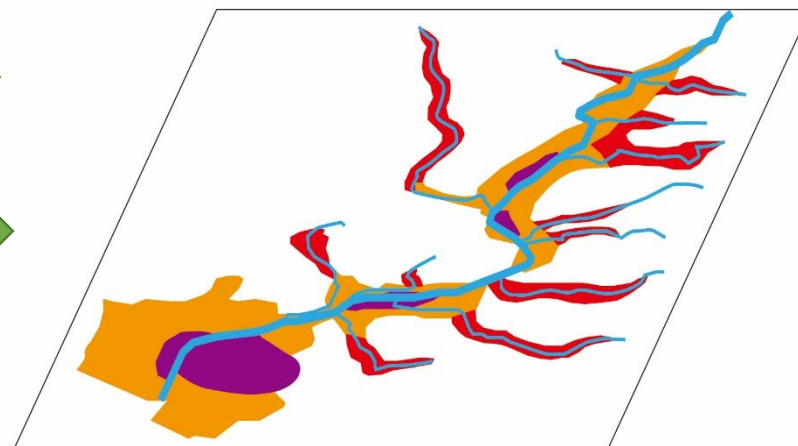
その他河川の
浸水想定区域図

下水道等からの氾濫
の
浸水想定区域図



※加古川（直轄区間）にて今後作成予定

内外水一体型の水害リスクマップ



内外水一体型の水害リスクマップ（概念図）